

情報公開に関する事項

【設置者に関する情報】

- ① 設置者の名称及び所在地並びに連絡先
名称：香川県
代表者氏名：香川県知事 浜田 恵造
所在地：香川県高松市番町四丁目1番10号
電話番号：087-831-1111

【福祉系高校に関する情報】

- ① 名称、住所及び連絡先：香川県立高松南高等学校
香川県高松市一宮町531番地
087-885-1131
- ② 福祉系高校の校長の氏名：平畑 博人
- ③ 開設年月日：平成22年4月1日
- ④ 学則等

学則の主な項目	留意点
設置目的	福祉に関する知識と技術を習得させ、福祉の業務に従事する者として必要な能力・態度を育てる。
修業年限	3年
学年、学期、休日	○学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる ○学年を分けて次の3学期に分ける 第1学期 4月1日から 8月31日まで 第2学期 9月1日から12月31日まで 第3学期 1月1日から 3月31日まで ○休日 休業日は、次のとおりとする 国民の祝日に関する法律に規定する休日、日曜日及び土曜日 学年始休業日 4月1日から4月5日まで 夏季休業日 7月21日から8月31日まで 冬季休業日 12月25日から翌年1月7日まで 学年末休業日 3月20日から3月31日まで その他 教育委員会が指定する日
休学、退学、復学、編入学	○退学及び休学 生徒が病気又は他の理由で退学又は休学しようとするときは、所定の退学許可願又は休学許可願を校長に提出して許可を受けなければならない。休学の期間は3か月以上1年以内とする。ただし、校長は、特に必要があると認めるときに限り、その期間を2年まで延長することができる。 ○復学 休学中の生徒が復学しようとするときは、所定の復学許可願を校長に提出して許可を受けなければならない。

学習の評価(成績考査) 課程の修了の認定(卒業)	<p>○転入学 本校の第1学年の途中又は第2学年以上に入学を許可される者は、相当年齢に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認められた者とする。本校への転入学を希望する者は、所定の願書にその事由を記載して、これを校長に提出しなければならない。</p> <p>○履修 本校の教育課程に定められた科目をすべて履修(必修)し、修得しなければならない。各科目の出席時間数が学校指定規則の定める時間数の3分の2(ただし、介護実習については5分の4)に満たない者については、当該科目の履修の認定をしない。</p> <p>○修得 成績の評価は、定期考査又は作品、実技・実習・報告書等の成績及び平素の成績をもって総合的に判定する。</p> <p>○卒業 全課程の修了が認定された者に卒業証書を授与する。</p>
教職員の組織	校長(1人) 教頭(2人) 教務主任(1人) 教諭等(103人) 事務部長(1人) 主任(2人) 主事(1人) 嘱託(3人) この内福祉科専任教員6人
賞罰	校長は、教育上必要があると認めるときは、生徒をほう賞することができる。校長及び教員は教育上必要があると認めるときは、生徒に懲戒を加えることができる。

⑤ 施設設備の概要 使用教室の名称及び面積など

教室等の名称	面積	備考	教室等の名称	面積	備考
普通教室1	60.4 m ²		演習室	45.1 m ²	
普通教室2	60.5 m ²		器材庫	36.6 m ²	
普通教室3	60.4 m ²		更衣室	35.5 m ²	
福祉総合実習室	128.1 m ²		大会議室	131.3 m ²	学内共用
準備室	32.0 m ²		相談室	31.7 m ²	学内共用
介護実習室	128.9 m ²		調理実習室	154.4 m ²	学内共用
和室	6 畳		被服実習室	122.4 m ²	学内共用
入浴実習室	57.6 m ²		図書室	220.21 m ²	学内共用
福祉科職員室	35.5 m ²		蔵書数	18,113 冊	学内共用
リネン室・洗濯室	32.0 m ²		事務室	60.5 m ²	学内共用

【養成課程に関する情報】

①養成課程の教育課程表

教科	科目	標準単位	1年	2年	3年	合計	
国語	国語総合	4	4(140)			4	
	国語表現	2			2(70)	2	
	現代文A	2		2(70)		2	
地理 歴史	世界史A	2			2(70)	2	
	日本史A	2		2(70)		2	
公民	現代社会	2	2(70)			2	
数学	数学I	3	3(105)			3	
理科	科学と人間生活	2	2(70)			2	
	生物基礎	3			3(105)	3	
保健体育	体育	7~8	2(70)	2(70)	3(105)	7	
	保健	1					
芸術	音楽I	2		2(70)		※2	
	美術I	2					
	書道I	2					
外国語	コミュニケーション英語I	3	3(105)			3	
	コミュニケーション英語II	4		2(70)	2(70)	4	
家庭	家庭基礎	2		2(70)		2	
普通教科の単位数計			16(560)	12(420)	12(420)	40(1400)	
福祉 社	人間と社会	社会福祉基礎	4	2(70)	2(70)		4(140)
	介護	介護福祉基礎	5	2(70)		3(105)	5(175)
		コミュニケーション技術	2		2(70)		2(70)
		生活支援技術 (医療的ケアを含む)	10	3(105)	4(140)	3(105)	10(350)
		介護過程	4		2(70)	2(70)	4(140)
		介護総合演習	3	1(35)	1(35)	1(35)	3(105)
		介護実習	13	2(70)	6(210)	5(175)	13(455)
	こころとからだの理解	こころとからだの理解	8	2(70)	2(70)	4(140)	8(280)
	福祉情報活用	2	2(70)			2(70)	
専門教科の単位数計			14(490)	19(665)	18(630)	51(1785)	
特別活動	ホームルーム活動	3	1(35)	1(35)	1(35)	3(105)	
総合的な学習の時間		3					
計			31(1085)	32(1120)	31(1085)	94(3290)	

備考

代替

- ・「こころとからだの理解」の履修により「保健」を代替する。
- ・「介護総合演習」の履修により「総合的な学習の時間」を代替する。
- ・「福祉情報活用」の履修により「情報A」を代替する。

選択科目

- ・2年 芸術は「音楽I」「美術I」「書道I」のうち1科目選択(※)

介護福祉士国家試験受験資格取得に必要な単位修得科目

- ・福祉の科目のうち、「福祉情報活用」を除くすべての科目とする。
- ・領域「人間と社会」に関する選択科目は「現代社会」「家庭基礎」とする。

② 生徒定員・学級数：1 学年 30 人 1 学級×3 学年 全3 学級

③ 入学までの流れ（募集、申し込み、資料請求先）

- ・入学時期：入学式は原則として4月7日とする
- ・入学資格：学校教育法第57条の規定により高等学校に入学できる者 以下参照

【学校教育法第57条】

高等学校に入学できる者は、中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者若しくは中等教育学校の前期課程を修了した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

- ・入学者の選考：県立学校学則第12条に基づく入学者選抜要綱による
- ・入学手続き：本校が定める「合格者のしおり」による

④ 費用

- ・入学検定料 (2,200 円)
- ・入学料 (5,650 円) 入学を許可された者は、指定された日に納入する。

生徒1人あたりの負担金 (平成31年度合格者のしおりより)

制服 女子A体 約62,000円 男子A体 約45,800円

毎月振替金額 18,480円

授業料 9,900円 (就学支援金支給対象者は不徴収)

PTA会費 720円

修学旅行積立金 5,000円

生徒会費 450円

進路指導費 130円

部活動振興費 1,200円

空調維持費 1,080円

その他諸費

学年	第1学年	第2学年	第3学年	合計
内容	教科書 6,539	副読本 28,788	副読本 3,240	
	副読本 26,462	国試対策本	模試など 10,048	
	体操服、シューズ、校章	1,512	国試受験 15,300	
	18,400	遠足代 2,500	遠足代 2,500	
	実習服 26,000	日赤代 3,200		
	遠足代 2,500			
	日赤代 3,200			
合計	83,101	36,000	31,088	150,189

⑤ 科目名及び使用する教材

科目	使用する教材
社会福祉基礎	教科書 社会福祉基礎 (実教出版) 新課程 社会福祉基礎学習ノート (実教出版) 新・介護福祉士養成講座 2 [第6版] 社会と制度の理解 (中央法規)
介護福祉基礎	教科書 介護福祉基礎 (実教出版) 新課程 介護福祉基礎学習ノート (実教出版)
コミュニケーション技術	教科書 コミュニケーション技術 (実教出版)
生活支援技術 (医療的ケアを含む)	教科書 生活支援技術 (実教出版) 新・介護福祉士養成講座 6 [第4版] 生活支援技術Ⅰ (中央法規) 新・介護福祉士養成講座 7 [第3版] 生活支援技術Ⅱ (中央法規) 新・介護福祉士養成講座 8 [第3版] 生活支援技術Ⅲ (中央法規) 新・介護福祉士養成講座 15 [第3版] 医療的ケア (中央法規)
介護過程	教科書 介護過程 (実教出版) 新・介護福祉士養成講座 9 [第3版] 介護過程 (中央法規)
介護総合演習	新・介護福祉士養成講座 10 [第3版] 介護総合演習・介護実習 (中央法規)
介護実習	新・介護福祉士養成講座 10 [第3版] 介護総合演習・介護実習 (中央法規)
こころからだの理解	教科書 こころとからだの理解 (実教出版) 最新介護福祉全書 9 発達と老化の理解 (メヂカルフレンド社) 最新介護福祉全書 10 認知症の理解と介護 (メヂカルフレンド社) 最新介護福祉全書 11 障害の理解 (メヂカルフレンド社) 新・介護福祉士養成講座 14 [第3版] こころとからだのしくみ (中央法規) 最新介護福祉全書 別巻 1 医学一般 (メヂカルフレンド社)

⑥ 教材

福祉情報活用 30時間でマスターWord&Excel 2013 (実教出版)

⑦ 介護実習施設等の名称住所及び事業内容

名 称	住 所	事業内容
特別養護老人ホーム さぬき	高松市宮脇町二丁目 37 番 21 号	介護保険事業
特別養護老人ホーム 竜雲舜虹苑	高松市仏生山町甲 3100 番地 2	介護保険事業
特別養護老人ホーム サマリヤ	高松市松並町 573 番地	介護保険事業
特別養護老人ホーム さくら荘	高松市林町 76 番地 14	介護保険事業
特別養護老人ホーム はなぞの園	高松市上福岡町 2004 番地 1	介護保険事業
特別養護老人ホーム おりいぶ荘	高松市太田下町 2020 番地 1	介護保険事業
特別養護老人ホーム 岡本荘	高松市岡本町 527 番地 1	介護保険事業
特別養護老人ホーム なでしこ香川	高松市多肥上町 1423 番地 1	介護保険事業

特別養護老人ホーム 玉藻荘	高松市北浜町7番10号	介護保険事業
特別養護老人ホーム エデンの丘	高松市鶴市町1770-4	介護保険事業
特別養護老人ホーム 扇寿	高松市香南町横井492番地1	介護保険事業
特別養護老人ホーム 桜樹苑	高松市香川町浅野1414番地	介護保険事業
特別養護老人ホーム 法寿苑	高松市木太町3308番地	介護保険事業
特別養護老人ホーム シオンの丘ホーム	高松市香西北町260番地	介護保険事業
高松老人保健施設 フローラ	高松市東ハゼ町830番地の1	介護保険事業
介護老人保健施設 さつき荘	高松市三谷町南原1680番地	介護保険事業
介護老人保健施設 サンフラワー	高松市一宮町1556-2	介護保険事業
ショートステイ 扇寿	高松市香南町横井492番地1	介護保険事業
老人介護支援センター さぬき	高松市宮脇町2丁目37番21号	介護保険事業
老人介護保険施設 虹の里	高松市栗林町1丁目3番地24号	介護保険事業
デイサービスセンター さぬき	高松市宮脇町2丁目37番21号	老人デイサービス事業
デイサービスセンター 竜雲舜虹苑	高松市仏生山町甲3100番地2	老人デイサービス事業
西春日デイサービス	高松市西春日町1510-1	老人デイサービス事業
はなぞの園老人デイサービスセンター	高松市上福岡町2004番地1	老人デイサービス事業
デイサービスセンター 玉藻荘	高松市北浜町7番10号	老人デイサービス事業
デイサービス 扇寿	高松市香南町横井492番地1	老人デイサービス事業
岡本荘デイサービスセンター	高松市岡本町527番地1	老人デイサービス事業
法寿苑デイサービスセンター	高松市木太町3308番地	老人デイサービス事業
桜樹苑デイサービスセンター	高松市香川町浅野1414番地	老人デイサービス事業
総合ケアセンター ヨハネの里デイサービスセンター	高松市鶴市町241番	老人デイサービス事業
さくら荘デイサービスセンター	高松市林町76番地14	老人デイサービス事業
おりいぶ荘デイサービスセンター	高松市太田下町2020番地1	老人デイサービス事業
訪問介護事業所 さぬき	高松市宮脇町2丁目37番21号	訪問介護事業
西春日ホームヘルプサービス	高松市西春日町1510-1	訪問介護事業
さくら荘訪問介護事業所	高松市林町76番地14	訪問介護事業

おりいぶ荘訪問介護事業所	高松市太田下町 2020 番地 1	訪問介護事業
訪問介護 岡本荘	高松市岡本町 527 番地 1	訪問介護事業
弘善会ヘルパーステーション	高松市木太町 3308 番地	訪問介護事業
障害児入所施設 (福祉型) 香川県立川部みどり園	高松市川部町 418	障害福祉サービス事業
障害者支援施設 香川県立川部みどり園	高松市川部町 418	障害福祉サービス事業
就労継続支援B型 就労支援事業所竜雲かしのき園	高松市仏生山町甲 3207 番地 2	障害福祉サービス事業
障害者支援施設 竜雲あけぼの学園	高松市仏生山町甲 3208 番地 9	障害福祉サービス事業
障害者支援施設 香川県障害者施設たまも園	高松市田村町 797 番地	障害福祉サービス事業
障害福祉サービス事業所 あゆみ園	高松市勅使町 398 番地 18	障害福祉サービス事業
かがわ総合リハビリテーション 療養介護施設	高松市田村町 1114 番地	障害福祉サービス事業
桜樹苑訪問介護事業所	高松市香川町浅野 1414 番地	訪問介護事業
特別養護老人ホーム さんさん荘	高松市香川町川内原 1003-1	介護保険事業
さんさん荘老人デイサービスセンター	高松市香川町川内原 1003-1	老人デイサービス事業
介護老人保健施設 あやがわ	綾歌郡綾川町陶 1720 番 1	介護保険事業
通所リハビリテーション あやがわ	綾歌郡綾川町陶 1720 番 1	介護保険事業
高松市社会福祉協議会 通所介護	高松市福岡町 2 丁目 24 番 10 号	老人デイサービス事業
高松市社会福祉協議会 訪問介護	高松市福岡町 2 丁目 24 番 10 号	訪問介護事業
総合ケアセンター ヨハネの里ヘルパース テーション	高松市鶴市町 241 番地	訪問介護事業

⑧ 介護実習の内容及び特徴

1 介護実習の目標

福祉に関する他の科目で学習した知識や技術を統合し、対象に応じた介護サービスを提供する実践能力と態度を養う。

- ・他職種との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
- ・さまざまな利用者の生活、障害を理解し、そのニーズに応じた介護方法を習得する。
- ・あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識、技術を習得する。
- ・介護実習を通して、介護サービス従事者としての自覚と態度を身につける。

2 学年毎の実習内容

〈1年次〉

(1) 目標

高齢者デイサービス等の現場を実際に見学して、介護活動の概要を学び、対象への接し方を身に付ける。

(2) 達成課題

- ① 要介護高齢者の日常生活や生活環境を理解できる。
- ② 利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。

- ③ 基本的な介護技術の流れを理解できる。
- ④ 利用者の生活ニーズに気づき介護内容の必要性を理解できる。
- ⑤ 基本的な記録物が作成できる。
- ⑥ マナー、職務規定を守ることができる。
- ⑦ 介護職の業務の流れを理解できる。

(3) 介護実習の内容

- ・事前指導（介護総合演習）：実習の意義・目標の理解
（施設の概要、実習諸記録物の記入の仕方、実習の日程・日課、実習施設の概要、施設までの交通機関、実習中の礼儀や生徒の立場の礼節を改めて認識し、人間的成長に向けて心構えを培う。）
- ・事前訪問：目標達成のため、各自の実習目標や方法の検討
（実習指導者から施設概要や利用者の要介護度、障害の程度、利用者の日課、年間行事等、また、職種別業務分掌、勤務体制等の説明を受け、生活環境や施設生活、職員の業務等を理解する。）
- ・現場実習：利用者とのコミュニケーション、生活環境・介護職の理解
（利用者の日常生活全般：起居移動・食事・排泄・清潔・整容・更衣の観察から、利用者のニーズの個別性を確認し、指導を受けながら、介護の初歩的・基本的な援助計画を考え、援助活動を体験する。多職種との連携、会議やカンファレンス・引き継ぎ等の見学をする。）
- ・施設内反省会：実習目標への到達度の評価、議題の発見等について実習指導者から指導を受ける。
- ・実習報告・反省会（介護総合演習）：実習総括
（現場実習終了後、実習での体験や学びを発表し次の実習へのステップとする。）

〈2年次〉

(1) 目標

高齢者及び障害者施設での実習を通して介護活動の実際を体験的に学び、利用者への援助技術を身に付け、個別性への援助を学ぶ。

(2) 達成課題

- ① 自己目標を達成するための計画的な取り組みができる。
- ② 多様な施設・事業所の役割を理解できる。
- ③ さまざまな利用者の生活像、障害像を理解できる。
- ④ 障害特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。
- ⑤ 介護実践に必要な情報を収集できる。
- ⑥ 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を身に付ける。
- ⑦ チームにおける各職種の役割について理解できる。
- ⑧ 介護理念・倫理について理解を深める。
- ⑨ 利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解できる。

(3) 介護実習の内容

- ・事前、事前指導（介護総合演習）：実習の意義・目標の理解
（施設の概要、実習諸記録物の記入の仕方、実習の日程・日課、実習施設の概要、施設までの交通機関、実習中の礼儀や生徒の立場の礼節を改めて認識し、人間的成長に向けて心構えを培う。）
- ・事前訪問：目標達成のため、各自の実習目標や方法の検討
（実習指導者から施設概要や利用者の要介護度、障害の程度、利用者の日課、年間行事等、また、職種別業務分掌、勤務体制等の説明を受け、生活環境や施設生活、職員の業務等を理解する。）
- ・現場実習：障害特性に応じたコミュニケーション、ニーズに応じた介護方法の理解、多職種の理解（利用者の日常生活全般：起居移動・食事・排泄・清潔・整容・更衣の観察から、利用者のニーズの個別性を確認し、指導を受けながら、介護の初歩的・基本的な援助計画を考え、援助活動を体験する。多職種との連携、会議やカンファレンス・引き継ぎ等の見学をする。）
- ・施設内反省会：実習目標への到達度の評価、議題の発見等について実習指導者から指導を受ける。
- ・実習報告・反省会（介護総合演習）：実習総括
（現場実習終了後、実習での体験や学びを発表し次の実習へのステップとする。）

〈3年次〉

(1) 目標

高齢者施設における介護過程の展開を通して介護の実践力を身に付けるとともに、介護観、職業観を養う。

(2) 達成課題

- ① 利用者個々の生活リズムや個性に応じた介護方法を実践できる。
- ② 一連の介護過程（作成～実施～評価～修正）が展開できる。
- ③ ターミナルケアの理解を深める。
- ④ チームの一員として介護を遂行できる。
- ⑤ 介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方を理解できる。

(3) 介護実習の内容

- ・事前指導（介護総合演習）：実習の意義・目標の理解
（施設の概要、実習諸記録物の記入の仕方、実習の日程・日課、実習施設の概要、施設までの交通機関、実習中の礼儀や生徒の立場の礼節を改めて認識し、人間的成長に向けて心構えを培う。）
- ・事前訪問：目標達成のため、各自の実習目標や方法の検討
（実習指導者から施設概要や利用者の要介護度、障害の程度、利用者の日課、年間行事等、また、職種別業務分掌、勤務体制等の説明を受け、生活環境や施設生活、職員の業務等を理解する。）
- ・現場実習：個別性に応じた介護方法の実践、介護過程の展開（利用者の日常生活全般：起居移動・食事・排泄・清潔・整容・更衣の観察から、利用者のニーズの個別性を確認し、指導を受けながら、介護の初歩的・基本的な援助計画を考え、援助活動を経験する。多職種との連携、会議やカンファレンス・引き継ぎ等の見学をする。）
- ・施設内反省会：実習目標への到達度の評価、議題の発見等について実習指導者から指導を受ける。
- ・実習報告・反省会（介護総合演習）：実習総括
（現場実習終了後、実習での体験や学びを報告会で報告する。）

3 介護実習の実施時期

- ・介護実習の総合計単位数は13単位（455時間）とする。
- ・介護実習は、集中実習の形式をとり、教科の学習の進度に応じ、各学年毎に実習内容を分ける。なおこの間、他教科の授業に支障を生じさせないよう各教科担当者と綿密な調整を行う。

〈第1学年〉10月（5日間）、2月（5日間）

〈第2学年〉9月（7日間）、11月～12月（16日間）

〈第3学年〉5月～6月（15日間）、7月（5日間）

【実績に関する情報】

- ① 卒業者延べ人数：204人
- ② 平成30年度卒業者28人の進路の状況

進学者	福祉関係進学	就職者	福祉関係就職	無業者
17人	9人	11人	8人	0人

- ・就職先の施設種別および就職者数 10人

社会福祉施設	老人保健施設	病院	その他	福祉関係以外
8人	0人	0人	0人	2人

- ・進学先の学校種別および進学者数 17人

4年生大学	短期大学	専修各種学校
8人	1人	8人

- ③ 平成30年度介護福祉士国家試験

卒業者	受験資格取得者	受験者	筆記試験合格者	国家試験最終合格者
28人	28人	28人	28人	28人